

市川市に関する浮世絵

(市川市ってどんな街? 3)



市川を描いた浮世絵があるのをご存じですか。浮世絵から、かつての市川の様子を見てみましょう。

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 「真間の紅葉手古那の社継はし」 歌川広重（初代） 名所江戸百景 | 13. 「ぎやうとくしほはまよりのぼとのひかたをのぞむ」 葛飾北斎 |
| 2. 「鴻の台とね川風景」 歌川広重（初代） 名所江戸百景 | 14. 「下総真間つぎ橋」 小林清親 武蔵百景之内 |
| 3. 「下総国府ノ台」 歌川広重（初代） 関東名所図会 | 15. 「下総鴻之台 市川の遠景」 小林清親 武蔵百景之内 |
| 4. 「下総鴻の台」 歌川広重（初代） 不二三十六景 | 16. 「下総真間弘法寺」 小林清親 武蔵百景之内 |
| 5. 「鴻之台とね川」 歌川広重（初代） 富士三十六景 | 17. 「真間弘法寺」 井上安治 東京百景 |
| 6. 「行徳婦帆」 歌川広重（初代） 江戸近郊八景之内 | 18. 「利根川東岸弍覽」 歌川貞秀 |
| 7. 「行徳塩浜之図」 歌川広重（初代） | 19. 「不知藪八幡之実怪」 月岡芳年 |
| 8. 「市川のわたし」 歌川広重（三代） 成田土産名所尽 | 20. 「行徳入江の場」 歌川豊国（三代） |
| 9. 「行徳 新川岸 市川」 歌川広重（三代） 成田土産名所尽 | 21. 「行徳入江の場」 歌川国芳 |
| 10. 「国府の台眺望」 歌川広重（初代） 絵本江戸土産 | 22. 「行徳入江（素性を明かすの場）」 歌川国芳 |
| 11. 「真間の継橋手子名の社」 歌川広重（初代） 絵本江戸土産 | 23. 「行徳入江の場」 歌川国貞（初代） |
| 12. 「市川の渡し」 歌川広重（二代）（絵本江戸土産） | 24. 「行徳入江の場」 歌川国貞（二代） |
| | 25. 「新板狂言外題尽 里見八犬伝 行徳の場」 豊原国周 |
| | 26. 「里見八犬傳之内葛飾合戦」 月岡芳年 |

※掲載した版画等の図案の著作権保護期間は終了しています。

(1) 「^まま ^もみ ^じて ^こな ^{やし}ろ ^つぎ ^うた ^がわ ^ひろ ^しげ ^しょ ^だい ^めい ^しょ ^え ^どひ ^やっ ^けい 「真間の紅葉手古那の社継はし」 歌川広重（初代） 名所江戸百景

真間山弘法寺は、江戸近郊随一の紅葉の名所でした。画面中央に継橋が描かれ、鳥居と手児奈霊神堂を見ることができます。色づいた楓の葉の奥には、筑波山が描かれています。



(2) 「^こう ^だい ^がわ ^ひろ ^しげ ^しょ ^だい ^めい ^しょ ^え ^どひ ^やっ ^けい 「鴻の台とね川風景」 歌川広重（初代） 名所江戸百景

国府台から、江戸川の下流方向（南）を眺めた風景です。川の左側の、3人の人物が描かれている崖が、現在、里見公園がある国府台と思われます。画題の「とね川」は現在の江戸川で、かつては、北方の物資を江戸に運ぶ重要な水路でした。右岸には関東平野が広がり、右端に富士山が見えています。



(1) (2) 図版収録資料

- 『広重名所江戸百景』 ヘンリー・スミス／著（岩波書店 1992）【T/721.8/ア】
図版・解説 94 (1)、95 (2)

- 『広重名所江戸百景 秘蔵岩崎コレクション』(小学館 2007)【T/721.8/ア】
図版秋の部 95 p.108 (1)、96 p.109 (2) 解説 p.169 (1)、p.170 (2)
- 『浮世絵大系 17(別巻V)名所江戸百景 2』(集英社 1976)【書庫】
図版(原寸)94 (1)、95 (2) 解説 p.112
- 『今とむかし広重名所江戸百景帖』(暮らしの手帖社 1993)【I/C1】
図版と現在の写真の比較及び解説あり 14 p.42-43 (2)、31 p.76-77 (1)
- ★Web 「国立国会図書館デジタルコレクション」で閲覧することができます。(2021.9 確認)
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/1312330?tocOpened=1> (1)
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/1312331?tocOpened=1> (2)

歌川広重(初代)：寛政9(1797)～安政5(1858)年。江戸時代末期の浮世絵師。「名所江戸百景」は、広重最晩年の作品とも言われており、広重署名の竪大判錦絵118枚、広重(二代)の1枚と目録の120枚からなります。市川の名所二景は、秋の部として描かれていますが、それぞれ描いている方向は北と南を向いており、遠景として筑波山と富士山が対照的に描かれています。

(3) 「下総^{しもうさ}国府ノ台」歌川広重(初代) 関東名所^{かんとうめいしよすえ}図会



「関東名所図会」は天保(1830-43)の末頃に制作されました。
『江戸名所図会』([斎藤幸雄/ほか著])の「国府台断岸之図」と似た構図で描かれています。

(3) 図版収録資料

- 『名品揃物浮世絵 10 広重 I [江戸名所物]』(ぎょうせい 1991)
【T/721.8/メ/10】 図版番号 41 図版解説 p.150



(4) 「下総^{こう}鴻の台」歌川広重(初代) 不二三十六景^{ふじさんじゅうろっけい}

富士山を主題とした浮世絵としては、葛飾北斎の「富嶽三十六景」がよく知られていますが、広重も中判三十六枚揃の「不二三十六景」を手掛けています。北斎没後の嘉永5(1852)年に刊行されました。

(4) 図版収録資料

- 『広重の富士 完全版』赤坂治績/著(集英社 2011)【721.8/ア】 p.111-113
- ★Web 「ADEAC (アダアック)」(自治体史や古文書をはじめとする史資料を機関ごとに公開しているデジタルアーカイブシステム)で船橋西図書館所蔵の図版を閲覧できます。
<https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11F0/WJJS07U/1220415100/1220415100100020/mp005420> (2021.9 確認)

(5) 「鴻^{こう}之台とね川」歌川広重(初代) 富士三十六景^{ふじさんじゅうろっけい}

竪大判三十六枚揃の「富士山十六景」は、広重の最後の作品といわれています。
丘陵地帯の国府台を見下ろす高い視点から景観をとらえて描かれています。松の下の僧服の男性は国府台近くの総寧寺の僧で、この地を訪れる人の案内役でした。



(5) 図版収録資料

- 『歌川広重富士三十六景』(二玄社 2013)【721.8/ア】 p.42-43
- 『広重の富士 完全版』赤坂治績/著(集英社 2011)【721.8/ア】 p.110-113
- 『浮世絵の世界と市川 利根川東岸式覽を中心に』(市立市川歴史博物館 2017)【I/C0】 p.14
- ★Web「国立国会図書館デジタルコレクション」で閲覧することができます。(2021.9 確認)
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/1303334>

(6) 「^{ぎょうとくきはん}行徳帰帆」歌川広重(初代) ^{えどきんこうはっけいのうち}江戸近郊八景之内



「江戸近郊八景之内」は、天保8-9(1838-39)年頃の作です。本行徳河岸と日本橋小網町の行徳河岸の間、水路三里八町を結んでいた「行徳船」という定期船が描かれています。添えられた狂歌四種には、行徳の塩田のことが詠まれています。

- 「塩竈の煙はるかに附木かと みれば帆ぶねの帰る行徳 文亭」
- 「行徳の乗合ふねに籠詰の こんにやくのごとくあたまならふる 鶴友子亀丸」
- 「ふたまたの猫ざね川の追風に こはこは帰る行とくのふね 早船楼新酒」
- 「行とくの入日ほして帰るなり 夜は敷寝の海士が葎帆 高耳庵幸風」

(6) 図版収録資料

- 『名品揃物浮世絵 10 広重 I [江戸名所物]』 図版番号8 図版解説 p.143
- ★Web「国立国会図書館デジタルコレクション」で閲覧することができます。(2021.9 確認)
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/1309713?tocOpened=1>

(7) 「^{ぎょうとくしおはまのす}行徳塩浜之図」歌川広重(初代)



前景の右から左下に続く塩浜沿いの道から左上に塩焼小屋が並び、はるかに房総の山々が連なっています。北斎が描く塩浜が荒涼とした風景なのに対し、人々が行き交う温和な風景が描かれています。

(7) 図版収録資料

- 『市川市史 第4巻 現代・文化』(市川市 1975) 文化編図版69 白黒 解説 p.566-568
- ★Web「立命館大学アート・リサーチセンター ARC浮世絵ポータルデータベース」(WEB上に公開されている浮世絵をより研究レベルで総合的に検索できるようにしたデータベースサービス)でカラー図版を閲覧できます。(2021.9 確認)
[https://www.dh-jac.net/db/nishikie/results-big.php?f11=1&f85\[\]=%E8%A1%8C%E5%BE%B3%E5%A1%A9%E6%B5%9C&-format=resultsp.htm&-max=50&singleskip=0&enter=portal&lang=ja&skip=0](https://www.dh-jac.net/db/nishikie/results-big.php?f11=1&f85[]=%E8%A1%8C%E5%BE%B3%E5%A1%A9%E6%B5%9C&-format=resultsp.htm&-max=50&singleskip=0&enter=portal&lang=ja&skip=0)

(8) 「^{いちかわ}市川のわたし」歌川広重(三代) ^{さんだい}成田土産名所尽



「成田土産名所尽」は、明治時代の浮世絵師、歌川広重(三代)による明治23(1890)年の作です。東京から市川、行徳を通って成田本山までの中判風景版画10枚を1冊に綴じたものです。

(9) 「行徳^{ぎょうとく} 新川岸^{しんかし} 市川^{いちかわ}」歌川広重（三代） 成田土産名所尽

行徳新河岸は元禄 3（1690）年に公認され、物資や旅人が行き交うようになりました。絵には明治 10（1877）年に就航した蒸気船「通運丸」や常夜灯が描かれています。

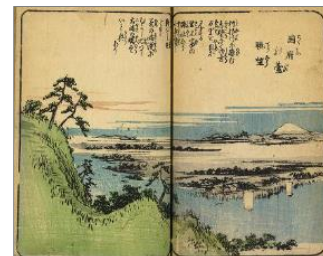


(8) (9) 図版収録資料

- 『市川市史 第2巻 古代・中世・近世』（市川市 1974）巻頭口絵 白黒写真（8）（9）
- 『浮世絵の世界と市川 利根川東岸弔覧を中心に』（市立市川歴史博物館 2017）【I/C0】 p.8（9）
- ★Web 「ADEAC（アデアック）」で船橋西図書館所蔵の図版を閲覧することができます。（2021.9 確認）
<https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/ImageView/1220415100/1220415100100020/90200024/>
2 頁目（8）、3 頁目（9）

(10) 「国府^{こくふ}の台眺望^{だいちょうぼう}」歌川広重（初代） 絵本江戸土産^{えほんえどみやげ}

「絵本江戸土産」は、見開き 2 頁から成る 1 枚の絵で名所を紹介したもので、全 10 編で構成されています。第 1 編から第 7 編までは歌川広重、第 8 編から第 10 編までは歌川広重（二代）によって描かれています。この絵は第 1 編に収録されています。

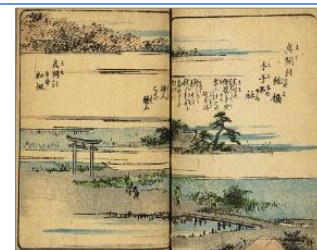


「利根川に臨む赤壁にて四方万里を一目に見する。里見家の城跡あり。北条勢と戦ひし兵（つはもの）どもが夢の跡、漫（すずろ）にむかし思はるる古跡の瞻望いと興あり」

(11) 「真間^{まま}の継橋^{つぎはして}手子^{こな}名の社^{やしろ}」歌川広重（初代） 絵本江戸土産

「絵本江戸土産」第 1 編に収録されています。

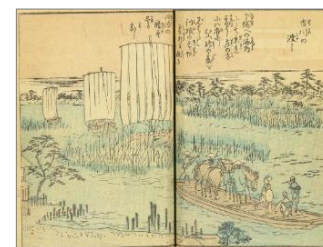
「真間の継橋手児奈の社、この辺古跡種々（くさぐさ）あり。秋は紅楓（もみぢ）に名高くて、都下の騷人ここに競ふ 真間の紅楓」



(12) 「市川^{いちかわ}の渡し^{わた}」歌川広重（二代） 絵本江戸土産^{えほんえどみやげ}

「絵本江戸土産」第 8 編に収録されています。

「下総への海道にして景色甚だよし。左の方には、名にしおふ鴻の台を見はらし、利根の遠帆雲外に航（はし）る。四時の瞻望（ながめ）尽きることなし」



(10) (11) (12) 図版収録資料

- 『浮世絵の世界と市川 利根川東岸弔覧を中心に』（市立市川歴史博物館 2017）【I/C0】 p.11（12）
- 『日本名所風俗図会 3 江戸の巻 I』（角川書店 1979）【書庫】
p.220（10）（11）、p.306（12） 白黒図版

- 『浮世絵大系 16(別巻Ⅳ)名所江戸百景 1』(集英社 1976)【書庫】 p. 85 (10) (11) 白黒図版
- 『浮世絵大系 17(別巻Ⅴ)名所江戸百景 2』(集英社 1976)【書庫】
p. 90 (12) 白黒図版

★Web「国立国会図書館デジタルコレクション」で閲覧することができます。(2021.9 確認)

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/8369306> 21 コマ (10)、22 コマ (11)

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/8369313> 16 コマ (12)

(13) 「ぎやうとくしほはまよりのぼとのひかたをのぞむ」^{かつしかほくさい} 葛飾北斎

北斎は、遠近や陰影などを強調した洋風版画を、寛政の末から文化の頃にかけて手がけています。行徳の塩田から登戸（千葉市中央区あたり）の鳥居を望み、彼方に房総半島が描かれています



(13) 図版収録資料

- 『人間の美術 10 [江戸時代 2] 浮世と情念』(学研 1990)【書庫】 図版と解説 p. 160
- 『秘蔵浮世絵大観 4 ヴィクトリア・アルバート博物館 I』(講談社 1988)【T/721.8/t/4】
図版番号 166 図版解説 p. 254
- 『秘蔵浮世絵大観 7 ギメ美術館 II』(講談社 1990)【T/721.8/t/7】 単色図版番号 79

★Web「ColBase 国立文化財機構所蔵品統合検索システム」(東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館と奈良文化財研究所の所蔵品を、横断的に検索できるサービス)で閲覧することができます。(2021.9 確認)

https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/A-10569-640?locale=ja

(14) 「^{しもうさ}下総真間つぎ橋」^{こばやしきよちか}小林清親 ^{むさしひゃっけいのうち}武蔵百景之内

「武蔵百景之内」は、最後の浮世絵師といわれる小林清親が明治 17(1884)～18(1885)年に発表したシリーズです。

「下総真間つぎ橋」では、手前には女性が大きく描かれており、中景に真間川と橋を、遠景には手児奈霊神堂が描かれています。



(15) 「^{しもうさこう}下総鴻ノ台 ^{だい}市川の遠景」^{いちかわ}小林清親 ^{えんけい}武蔵百景之内

国府台の台地へと上がる坂から、市川の渡し周辺の様子が描かれています。



(16) 「^{しもうさ}下総真間弘法寺」^{まぐほうじ}小林清親 武蔵百景之内

紅葉の名所として有名だった真間山弘法寺境内の様子が描かれています。



(14) (15) (16) 図版収録資料

- 『小林清親 光と影をあやつる最後の浮世絵師』(河出書房新社 2017)
【721.9/コ】 p.88-89 (14)、p.91 (15)
- 『浮世絵の世界と市川 利根川東岸弑覧を中心に』(市立市川歴史博物館 2017)【I/C0】
p.11 (15)、p.13 (14)、p.14 (16)
- ★Web「国立国会図書館デジタルコレクション」で閲覧することができます。(2021.9 確認)
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/2542756> 8コマ(14)、20コマ(15)、21コマ(16)

(17) 「真間弘法寺」井上安治 東京百景

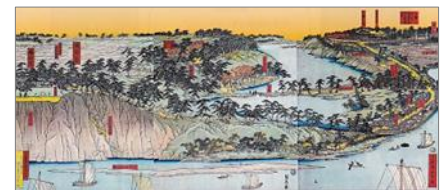


井上安治は、小林清親の弟子で、明治初期の東京風景を描き写した浮世絵師です。26歳の若さで亡くなるまで東京の風景を描き続けました。東京郊外の作品もわずかにあり、市川も描かれています。仁王門横から遠くに房総の海を臨む構図となっています。

(17) 図版収録資料

- 『井上安治版画集「明治の東京風景」』(阿部出版 2018)【721.9/I】 p.195
- ★Web「Tokyo Museum Collection:都立博物館・美術所蔵品検索」(6つの都立ミュージアムの所蔵資料・作品を横断的に検索できるサイト)で閲覧することができます。浮世絵は、主に江戸東京博物館で所蔵しています。(2021.9 確認)
<https://museumcollection.tokyo/?s=%E7%9C%9F%E9%96%93%E5%BC%98%E6%B3%95%E5%AF%BA>

(18) 「利根川東岸弑覧」歌川貞秀



慶応4(1868)年の作です。題名の利根川は現在の江戸川にあたり、江戸川下流の市川・浦安方面を対岸の上空から俯瞰したような6枚続きの鳥瞰図です。左の3枚は、国府台、真間、市川・八幡の町並。右の3枚は、川の手前が現江戸川区で、対岸が行徳から浦安となっています。必ずしも実景どおりではありませんが、全体としては当時の様子をよく伝えています。

鳥瞰式風景画の名手として知られる玉蘭齋(ぎょくらんさい)貞秀(歌川貞秀)の画です。

(18) 図版収録資料

- 『浮世絵の世界と市川 利根川東岸弑覧を中心に』(市立市川歴史博物館 2017)【I/C0】 p.1-7
- ★Web「ADEAC(アデアック)」で船橋西図書館所蔵の図版を閲覧することができます。(2021.9 確認)
<https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/ImageView/1220415100/1220415100100020/90200021/>

(19) 「不知数八幡之実怪」月岡芳年



「八幡の藪知らず」を描いた絵として知られている3枚続きの作品です。水戸黄門(右下の老人)が藪に入ると、屍を積んだ中で経を読む老人と出会い、「我は人の善悪を天に訴える神なり、早々に立ち去るべし」と言われる場面を描いています。

(19) 図版収録資料

●『芳年』岩切友里子／編著（平凡社 2014）【721.8/ツ】図版番号 126 p. 90-91 解説 p. 245

★Web「千葉県立図書館 菜の花ライブラリー」でカラー画像を閲覧することができます。（2021.9 確認）

http://e-library.gprime.jp/lib_pref_chiba/da/detail?tilcod=0000000014-CHB1696417

(20) 「行徳入江の場」^{ぎょうとくいりえ} 歌川豊国^{うたがわとよくに}（三代）

嘉永 5（1852）年正月市村座の「里見八犬伝」の芝居に取材した浮世絵で、3枚続きとなっています。芳流閣の激闘から利根川の小舟に落ち、行徳入江に流れ着いた信乃と現八が犬田小文吾に助けられる場面です。



(20) 図版収録資料

●『八犬伝錦絵大全』服部仁／監修・著（芸艸堂 2017）【721.8/ハ】 p. 93

★Web「ADEAC (アデアック)」で船橋西図書館所蔵の図版を閲覧することができます。（2021.9 確認）

<https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/ImageView/1220415100/1220415100100020/90200405/>

(21) 「行徳入江の場」^{うたがわくによし} 歌川国芳

歌川豊国と同じく、嘉永 5（1852）年正月市村座の「里見八犬伝」の芝居に取材し浮世絵で、3枚続きとなっています。同じ場面ですが、舞台のように描く豊国（三代）とは異なり、国芳は風景画のように細部まで描いており、鷺が飛び立つ様子や、遠方に小舟が配置されているのがわかります。



(21) 図版収録資料

●『八犬伝錦絵大全』服部仁／監修・著（芸艸堂 2017）【721.8/ハ】 p. 93

★Web「文化遺産オンライン」（文化庁が運営する我が国の文化遺産についてのポータルサイト）で閲覧することができます。（2021.9 確認）

<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/382138/>

(22) 「行徳入江（素性を明かすの場）」^{すじょうあ} 歌川国芳^{うたがわくによし}

嘉永 5（1852）年正月市村座の「里見八犬伝」の芝居から、信乃と現八が小文吾たちに助けられ、三人が同じ玉を持つ八犬士であるという素性を明かしている場面と思われます。2枚続きになっています。



(22) 図版収録資料

●『八犬伝錦絵大全』服部仁／監修・著（芸艸堂 2017）【721.8/ハ】 p. 94

★Web「文化遺産オンライン」 <https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/359467>（2021.9 確認）

(23) 「行徳入江の場」^{うたがわくにさだ} 歌川国貞 (初代)

天保9(1838)年閏4月市村座の「戌歳里見八熟梅(あたりどしさとみのやつぶさのうめ)」の芝居に取材した浮世絵で、3枚続きとなっています。右絵は中央の1枚です。



(23) 図版収録資料

●『八犬伝錦絵大全』服部仁／監修・著(芸艸堂 2017)【721.8/ハ】p.75

★Web「文化遺産オンライン」で中央の1枚を閲覧することができます。(2021.9 確認)

<https://bunka.nii.ac.jp/db/heritages/detail/392895>

(24) 「行徳入江の場」^{うたがわくにさだ} 歌川国貞 (二代)

文久3(1863)年正月守田座の「波乗船音宝曾我(なみのりぶねおとのよきそが)」の芝居に取材した3枚続きの浮世絵です。



(24) 図版収録資料

●『八犬伝錦絵大全』服部仁／監修・著(芸艸堂 2017)【721.8/ハ】p.94

★Web「文化遺産オンライン」<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/382158> (2021.9 確認)

(25) 「新板狂言外題尽 里見八犬伝 行徳の場」^{くにちか} 豊原国周

国周は、幕末から明治にかけて活躍した最後の浮世絵師として、小林清親と並び称されています。

東京守田座上演「里見八犬士勇伝」行徳浜辺の山林房八(坂東彦三郎)と犬田小文吾(市川左団次)を描いた役者絵です。



★Web「文化遺産オンライン」<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/431010> (2021.9 確認)

(26) 「^{さとみはっけんてんのうちかつしかがっせん}里見八犬傳之内葛飾合戦」月岡芳年

里見を攻める管領連合軍の軍勢に対し、国府台から江戸川を越えて討って出た里見軍と犬塚信乃と犬飼現八を描いた場面です。



(26) 図版収録資料

●『八犬伝錦絵大全』服部仁／監修・著(芸艸堂 2017)【721.8/ハ】p.72-73

★Web「文化遺産オンライン」<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/437319> (2021.9 確認)

図書館では皆様の調べ物や課題解決のために様々なお手伝いをしています。調べ方がわからない時は遠慮なくお問い合わせください。
また、図書館のホームページからもお問い合わせいただけます。 お問い合わせ： 市川市中央図書館 047-320-3346